

令和2年度 第1回 金沢シビックテック推進協議会

日時：令和2年6月25日(木) 18:30～20:00(予定)

場所：金沢市役所本庁第1委員会室

次 第

1 開 会

2 議案審議

議案第1号 令和2年度事業計画（案）について

議案第2号 令和2年度予算（案）について

3 その他

・シビックテックサミット2020について

4 閉 会

金沢シビックテック推進協議会 委員名簿

(50音順、敬称略)

区分	氏名	役職	備考
委員	小俣 博司	オープン川崎 代表	
委員	真田 秀樹	株式会社アイ・オー・データ機器 社長室室長	
委員	中沢 実	金沢工業大学工学部情報工学科教授	
委員	福島 健一郎	一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事	会長
委員	布施 安子	NPO 法人子育て支援 さくらっこ 理事長	
委員	眞鍋 知子	金沢大学 地域創造学類 教授	
委員	矢後 智子	コードフォー高岡代表	
委員	谷内 博史	金沢市市民活動サポートセンター所長	
監事	徳田 伸治	金沢市会計課長	

令和2年度
金沢シビックテック推進協議会
事業計画（案）

令和2年度 事業計画（案）

金沢シビックテック推進協議会では、本年度次の4事業を実施する予定としている。

I マッチング事業

解決したい地域・行政課題を市民や行政から募り、ICTを活用したアイデアを募集する。アイデア提案者と協働制作を希望する作り手をマッチングさせ、開発支援を行う。

II オープンデータ官民ラウンドテーブル事業

オープンデータとしてニーズの高い分野やデータについて、オープンデータ官民ラウンドテーブルを開催し、行政職員及び民間企業や市民等の間で、データの公開要望や公開可否について、議論する場を設ける。

III シビックテック塾開催事業

アプリケーション開発や地域課題解決に興味を持つ学生・社会人等が、シビックテックの専門家のアドバイスを得ながら、地域の課題解決につながるアプリケーションの開発に取り組むことにより、スキル向上やシビックテックの周知を図る。

IV 情報発信事業

「シビックテックポータルサイト」を立ち上げ、金沢ゆかりのシビックテックの事例や他都市の事例などを掲載し、本市が積極的にPRする。

I マッチング事業

1 概要

解決したい地域・行政課題を市民や行政から募り、ICTを活用したアイデアを募集する。アイデア提案者と協働制作を希望する作り手をマッチングさせ、開発支援を行う。

2 事業の流れ

(1) 課題募集

- ・市民や行政に対して具体的な課題（困りごと）を募集する。
- ・課題のテーマは決めず、具体的な事案を募集し、事務局が課題を3つ程度選定する。

例1) 新型コロナウイルスに関する疑問があったとき、どこに聞けばいいかわからない。

例2) 市役所窓口へ行くといつも混み合っている。新型コロナウイルスの影響もあり、混雑していないときに窓口へ行きたいが、いつすいているのかわからない。

例3) 子供の給食の献立を忘れ、同じ夕食を作ってしまうのを防ぎたい。

(2) アイデア募集

- ・(1)で集まった課題を解決できるICTを活用したアイデアを募集する。
- ・アイデア提案書（企画書）を提出してもらう。

例1) Lineによるチャットボット（質問すると即座に回答がくる）システムを提案

例2) 市役所窓口の待ち人数を随時更新し、混雑予想が一目でわかるシステムを提案

例3) 金沢市小中学校の毎日の献立が表示されるアプリを作成

(3) アイデアの選定および作り手の募集

- ・(2)で集まったアイデアから5つ程度選定する。（委員選定）
- ・選定した結果を、HP等様々なメディアで公開する。
- ・アイデアを実際に構築できる“作り手”（プログラマー）の参加を募集する。

(4) イベントの実施

- ・アイデア保持者が作り手に向けて公開プレゼンテーションを実施する。
 - ① アイデア保持者は作り手に向けてプレゼンテーションを実施
 - ② マッチングタイム（アイデア保持者用のブースを設置）
作り手はブースを回って、プレゼンだけではわからない部分をもっと掘り下げて聞いたり、作り手側のアピールをする。

③ 手上げ方式でチームを決定

- ・作り手が複数いる場合、アイデア保持者がどちらと組むかを決定する。
- ・日程は平日の夜に設定、場所はITビジネスプラザ武蔵交流室を想定。
- ・プレゼンテーション実施者には謝礼金（1万円程度）用意
- ・結果を、HPやSNS等で公開

(5) 2者でのブラッシュアップ

- ・ブラッシュアップしたものを企画書としてまとめ、事務局に提出してもらう。
- ・企画書に必要経費欄（開発費・運用経費）を設け、経費は支援の金額を決定する際の参考にする。

(6) 支援の可否判定

- ・協議会委員が支援の可否を判定する。

※行政課題に対する解決アプリ（システム）については、担当課とも協議

(7) 開発支援

- ・毎年度の協議会からの支援額の上限は50万円とする。
- ・支援先は、1～2チーム程度にする。

3 支援金について

支援が複数チームに決定した場合、合計で上限50万円とする。

4 募集方法

HP、facebook、twitter、Instagram、新聞広報、記者提供、大学訪問、関連市民団体訪問 等

5 スケジュール（予定）

- 6～7月 解決したい課題の募集
- 8～9月 課題解決につなげるアイデア募集
- 10月 マッチングイベント開催
- 11月～12月 作り手の募集&アイデアのブラッシュアップ
- 1月 支援の可否の判断、支援

II オープンデータ官民ラウンドテーブル事業

1 概要

オープンデータとしてニーズの高い分野やデータについて、オープンデータ官民ラウンドテーブルを開催し、行政職員及び民間企業や市民等の間で、データの公開要望や公開可否について、議論する場を設ける。

2 募集テーマ

「健康・医療・介護・子育て」

<参考>

令和元年度のテーマ：「交通・移動・まちづくり」

- ・駐車場の混雑状態のステータス情報
- ・土地利用現況、建物利用現況（都市計画基礎調査）
- ・市内にある歩道のバリアフリー対応情報
（点字ブロック・車椅子対応の有無、歩道の幅、勾配等）

3 スケジュール（予定）

～7月 テーマ選定

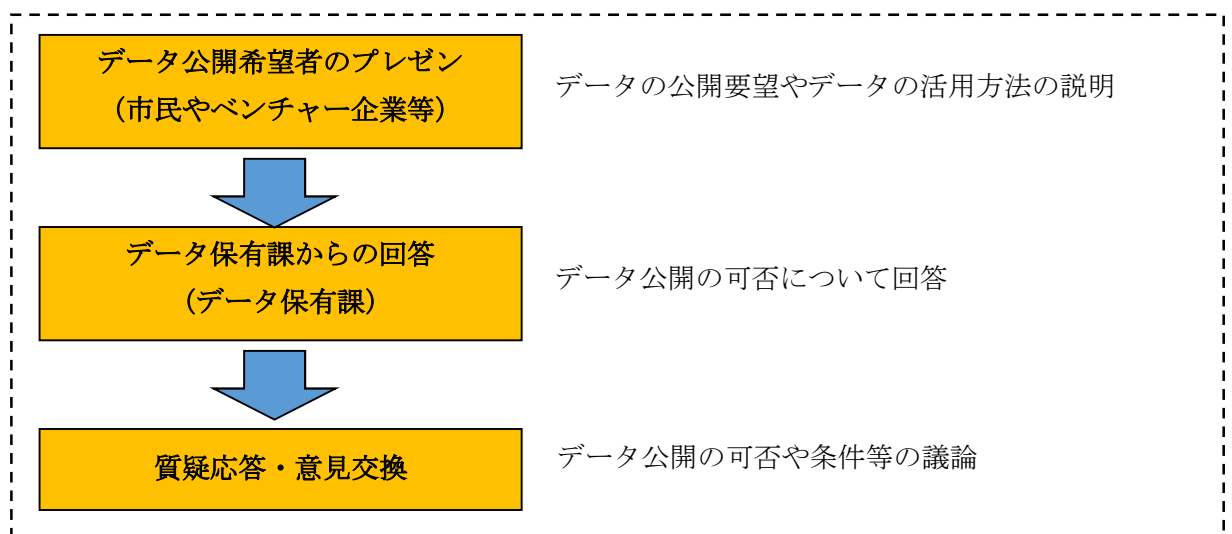
7～8月 データ公開要望募集

9月 担当課とのデータ公開の可否の検討・要望者との調整

10月 オープンデータ官民ラウンドテーブルの開催

10月～ 公開に向けた準備→オープンデータとして公開

4 ラウンドテーブル 当日の流れ



Ⅲ シビックテック塾開催事業

1 概要

アプリケーション開発や地域課題解決に興味を持つ学生・社会人等が、シビックテックの専門家のアドバイスを得ながら、地域の課題解決につながるアプリケーションの開発に取り組むことにより、スキル向上やシビックテックの周知を図る。

2 募集対象者

地域課題解決（シビックテック）に興味を持つ学生・社会人

※アプリ開発初心者でも受講可能

※居住地不問

3 講義内容

案)・コードを1行も書かずにプロダクトを作るノーコード塾

・月1回3か月間の開催とする。

※社会人を対象とするため、土曜日もしくは日曜日の開催とする。

・定員20名程度、受講費無料

※PCやスマートフォン等は各自で用意

1回目：シビックテックに関する座学、ノーコードの基礎（サンプルの作成）

2回目：自分の作りたいシステムを設計、作成

3回目：プロダクトの完成

4 スケジュール（予定）

6月 募集要項の作成

7月 受講生の募集

8～10月 シビックテック塾の開催

5 シビックテック塾の運営

Code for Kanazawaに委託予定

IV 情報発信事業

1 概要

「金沢シビックテックポータルサイト」を立ち上げ、金沢ゆかりのシビックテックの事例や他都市の事例などを掲載し、本市が積極的にPRする。

2 ポータルサイト

(1) ドメイン名

「金沢シビックテックポータルサイト」のドメインは、次のドメイン名を取得する予定である。

ドメイン名:kanazawa-civic-tech.jp

(2) サイト構成

- 協議会事業の紹介
 - ・金沢シビックテック推進協議会とは（目的・事業概要・委員）
 - ・実施事業情報
 - ・会議録の公開
- シビックテック人材バンク
 - ・シビックテック分野で活躍するプレイヤー情報を登録・情報発信
 - ・人材募集ページ
- 他地域事例集
 - ・他の自治体でのシビックテック活動事例の紹介
- シビックテック関連サイトのリンク集

3 スケジュール（予定）

- 7月 コンテンツ内容検討
- 8月 コンテンツ内容確定
- 9月 公開

令和2年度 第1回金沢シビックテック推進協議会

日時 : 令和2年 6月25日(木) 18:30~20:30

場所 : 金沢市役所 7階 第1委員会室

出席者 : 小俣 博司 オープン川崎 代表

真田 秀樹 株式会社アイ・オー・データ機器 社長室室長

中沢 実 金沢工業大学工学部情報工学科教授

福島 健一郎 一般社団法人コード・フォー・カナザワ代表理事

布施 安子 NPO 法人子育て支援 さくらっこ 理事長

眞鍋 知子 金沢大学 地域創造学類 教授

矢後 智子 コードフォー高岡代表

谷内 博史 金沢市市民活動サポートセンター所長

(五十音順)

事務局 鳥倉都市政策局長、松本情報政策課長、中島 ICT 活用推進室長、
藤木課長補佐、宿谷主任、住田主事、松田主事

1. 議案

- ・議案第1号 令和2年度事業計画について(案)
- ・議案第2号 令和2年度予算について(案)

2. 議案審議

議案第1号から第2号について承認した。

3. 委員意見

(1) 地域課題解決マッチング事業について

- ・3つの人がでてくるが(①困りごとを出す人、②アイデア、③作り手)①の人は最初だけしか登場しないのか。一緒に最後まで参加する仕組みにした方がいいのでは。参加を妨げないような仕組みを作った方がいい。【委員】
→①の人には最後まで協力してもらえるかを尋ねる予定だ。【事務局】
- ・金沢市在住でないと応募できないのか。【委員】
→金沢市民限定にはしない。【事務局】
- ・①の人は、いろんなことを無責任に発言しないように、最後まで協力する体制の方がいいのでは。コードフォー金沢では課題を持っている人がリーダーになることがある。チームに入りたいという情熱のある人の意見を採用したほうがいいのかもしれない。課題を出した人はその後が気になるのではないか。【委員】

- ・①の人がもし参加できないときなど、オンライン会議などで継続的にできる仕組みを作った方がいい。【委員】
- ・優れたアイデアを持つ人を広く取り入れるため、金沢市民に限定しない方がいい。課題は金沢の課題がいいと思うが。課題募集とアイデア募集の間に、コミュニケーションをとりながら参加できる仕組みを作った方がいい。【委員】
- ・必要経費について、運用経費とあるが、どのようなものか。【委員】
→基本的に単年度予算だが、持続して運用していただけるよう、運用についても検討したい。【事務局】
- ・他の自治体でも同じような事業もあるが、結局、作りっぱなしになってしまう。作り手は作る時は熱量があるが、そのうちメンテナンスもしなくなってしまう、誰でも参加できる仕組みを作らないといけない。課題を出した人が参加した方がいいものができる。作り手もどのようなものを求めているのか分からないだろう。【委員】
- ・営利目的な企業が参加してもいいのか。【委員】
→お金儲けをするというのはシビックテックにそぐわないが、防ぎようはない。【事務局】
- ・稼いだお金を運営やメンテナンスなどにちゃんと回すようならお金を稼いでもいい。お金を稼ぐことが全て悪いとは思わない。非営利にしぼるのか。絞らないなら、前提条件をつける等、考える必要がある。【委員】
- ・課題を出した人には最後までチームに入ってもらう方針でいくのが良いと思う。また、継続的な運用・保守がシビックテックの課題でもあり、市民のやる気を市はどうやって支えていくのが課題。【委員】

(2) オープンデータ官民ラウンドテーブルについて

- ・昨年の開催状況はどうだったか。【委員】
→6件応募があり、当日ラウンドテーブルでの議論したのは4件。そのうち、1件(投票所別投票率データ)を公開した。【事務局】

- ・昨年公開の投票所別投票率データはどのような用途の要望だったか。【委員】
→投票の分析や投票率向上のために使用するとのことだった。【事務局】
- ・実際に利用されたのか。【委員】
→把握していない。【事務局】
- ・必ずしもアプリに使うだけではなく、研究などアナログで使用しているかもしれない。活用されたのか要望者に確認した方が良い。そうすれば今後PRしやすい。説得材料、実績につながる。【委員】
- ・市が持っているデータでないと要望できないのか。要望者は匿名の応募なのか。【委員】
→金沢市が保有するデータに対する要望である。実名で応募してもらう。【事務局】
- ・データとして保有していなかった場合の対応はどうなるのか。【委員】
→データとして収集するのか作成できるか等、担当課で検討できることは行う。【事務局】
- ・データがない場合、その後や他のデータはないかとか、いろいろなことを討論するのがオープンデータラウンドテーブルである。【委員】

(3) シビックテック塾について

- ・課題のある人は自分で作れた方がいい。ノーコードはシビックテックに合っていると思う。【委員】
- ・オンラインで開催するのか。【委員】
→集合研修の予定である。【事務局】
→オンラインでも開催した方が良い。PCのない人は難しいかもしれないが。【委員】
- ・応募の対象として、大学生だけではなく、高校生や中学生まで応募できた方が良く思う。今後、考えていく必要があるのでは。【委員】
- ・高校生の参加には賛成である。さらに、リタイアした人の参加もあるとよい。【委員】
- ・大学生は8/8までは学外活動は禁止されている。オンラインでない場合、大学に募集はできない状況である。学内には学生はいるが、課外活動はしてはいけないことにな

っている。半分くらいの生徒が学校に来ている。【委員】

- ・スケジュールや場所、対象範囲の検討を事務局で考える必要がある。【委員】

(4) 情報発信事業について

- ・ポータルサイトのコンテンツはどのようにするのか。情報収集が難しいだろう。【委員】
→事例等はインターネット等で収集していく。【事務局】
- ・コロナ以降、ウェブマガジンなど、アプリ完成までの過程が掲載されることが多くなってきている。SNSと連動する等、皆が情報を掲載できるような“動”的なサイトにした方が良い。しかし、予算が低く、開発側は大変だと思う。【委員】
- ・インターネットで検索してもシビックテックの情報が少ない。これを見ればシビックテックがどんなものかがわかるサイトになると良い。【委員】
- ・シビックテックをまとめたサイトがない。見たくなるようなまとめ方のサイトを作る必要がある。誰でも更新できるような仕組み、オープンなプラットフォームを検討すればよい。【委員】